

| | | | |
|-------|---|------|----|
| 科目名 | 海外活動実践B | | |
| 教員名 | 加藤 源太郎 他 | | |
| 授業種別 | 集中講義 | 授業形態 | 講義 |
| 開講間隔 | | 単位数 | 2 |
| 履修年次 | 1 | 学期 | 前期 |
| 到達目標 | ・本学で可能な海外学習の内容を理解する。 ・海外学習の目的を理解する。 | | |
| 授業概要 | 本学在学中に、どこで、どのような形での海外学習が可能であり、また、それぞれにおいて何を学ぶことが目的とされるべきかをともに考える。その過程で、本学が教育目標の核として掲げる異文化での「協働」という概念を具体的に理解することを最終目標とする。海外学習講座では、本学が海外研修としてプログラムを実施する、しないに関わらず、異なる国・地域を取り上げ、異文化における「協働」の足がかりを提示する。 | | |
| 授業計画 | 招聘講師の都合などで、授業の順番等、予定を一部変更することがある。 【第1日(授業1～4)】 1限・2限 本学における海外学習について マッセルホワイト 3限・4限 カンボジア研修と文化社会状況 平井 【第2日(授業5～8)】 1限・2限 マレーシアの文化社会状況 山田 3限・4限 中国の文化社会状況と東アジア 川井 【第3日(授業9～12)】 1限・2限 韓国の文化社会状況 李 3限・4限 ネパール研修と文化社会状況 関 【第4日(授業13～15)】 1限・2限 フランス研修と文化社会状況 加藤 3限 まとめ 加藤 | | |
| 授業方法 | 複数の教員がそれぞれの分野を担当し、講義と小グループでの話し合いの形式で授業を進行する。また、学外からのゲストスピーカーや、研修参加経験を持つ先輩を招いた授業も行う。 | | |
| 授業外学習 | ①担当各教員から講義のテーマに関連する課題が提出され、定められた期限までに提出する。 | | |
| 教科書 | 特に使用しない。担当教員がプリント等を配布することもある。 | | |
| 参考書 | 適宜紹介する。 | | |
| 評価方法 | 全出席を評価の前提とする。特別な理由がない限り、欠席があれば評価の対象とならない。 その上で、各授業担当者が以下の点を中心に評価し、それに基づいて総合評価する。 1. 授業への参加度 70% 2. 授業で指示する提出課題 30% | | |
| 既修条件 | なし | | |